

本年度の重点	1	授業改善を図り、生徒の基礎学力の確実な定着と学習意欲を向上を図る
目標（評価規準）		学力の向上と学習に取り組む意識・意欲の向上を生徒・教員ともに実感できる
重点に係る現状 設定理由		学習に対する意欲、基礎的学力に課題がある。また、家庭学習の習慣が身につけていない傾向も見られる。学校研究の主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業で、生徒が互いに学び合う中で、わかる・できる・楽しい等を実感でき、学習意欲の向上を高められるよう教員の授業改善に努め、家庭と連携しながら生徒の学びの構えを意識させ、家庭学習の習慣化にも努めたい。

評価資料	評 価
	各アンケート項目に対して、AまたはBと回答した率を【肯定的】、CまたはDと回答した率を【否定的】と表記する。
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>①研究授業を通じた授業力の向上や言語活動の充実による主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりを図る。 <教員>【肯定的】100%→生徒の【肯定的】92%と概ね一致している。</p> <p>②一人ひとりの生徒に対する学習面の支援の充実に努める。 <教員>【肯定的】87%→生徒の【肯定的】89%と概ね一致している。</p> <p>③授業以外でも帰学習や学習会を行い、基礎基本の定着を図る。 <教員>【肯定的】100%→生徒の【肯定的】90%と概ね一致している。</p> <p>④家庭学習の大切さを生徒に伝え、取り組めるよう指導する。 <教員>【肯定的】93%→生徒の【肯定的】72%と差異が見られる。</p>
各アンケート等の結果	<p>①授業の研究を工夫して授業をしている(授業を工夫して学力を育もうとしている)。 <生徒>【肯定的】95%・【否定的】5% <保護者>【肯定的】89%・【否定的】11% [除判断できない17%] *生徒・保護者ともに高い評価をしている。(保護者の【肯定的】は昨年同様であった)</p> <p>②TT授業で生徒一人ひとりに丁寧に指導している。 <生徒>【肯定的】89%・【否定的】11% <保護者>【肯定的】81%・【否定的】19% [除判断できない25%] 判断できないも昨年と同様である *生徒・保護者とも高く評価をしている。授業公開・授業参観など、保護者の来校機会を増やし、実際の授業の様子を見ていただいたのも高評価の要因の1つと考えられる。</p> <p>③授業以外にも帰学習や学習会を行い基礎基本の定着を図ろうとしている。 <生徒>【肯定的】90%・【否定的】10% <保護者>【肯定的】85%・【否定的】15% [除判断できない12%] *生徒にとって定着した取り組みとなっており、保護者にも取り組みが確実に理解されてきている。</p> <p>④家庭学習は大切であると考え取り組むようしている(家庭学習の大切さを教え指導している)。 <生徒>【肯定的】72%・【否定的】28% <保護者>【肯定的】84%・【否定的】16% [除判断できない2%] *生徒【肯定的】は昨年とほぼ同様な傾向にあるが、保護者【肯定的】はここ数年大きな変化がみられない。今後も保護者に対しては、取り組みが浸透し、理解されるような工夫していく必要がある。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・①～④各項目とも、教員が高い意識を持って、毎日の教育活動実施が生徒にも確実に理解され浸透している結果が、生徒の高い肯定的な評価につながっていると考える。 ・保護者の判断できないという回答については、例年とあまり変化がない。今後もあらゆる機会を通して周知していく必要がある。 <p><対策・改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面でのアンケート結果では、教員・生徒・保護者間で昨年に比べ評価差がなくなっており、ここ数年どの項目も肯定的評価率が高くなっている。しかしながら、学校での取り組みが、まだまだ家庭に理解されていない面もあり、取り組みや成果が保護者に確実に伝わるような手立ての必要がある。 ・家庭学習の習慣化を図るための自主学習ノートの活用や基礎基本の定着に向けての取り組みは、まだ学年により多少の差異がある。家庭学習の大切さを教員も共通に理解し、生徒・保護者への浸透を図る必要がある。 ・学習活動への取り組みの安定が、校内での安心・安全な生活にも影響してくることを、全教員が再認識して、学習指導と生活指導を連携した取り組みの推進を図る。また、さらに充実した学習環境を提供し、学力の向上につなげていく。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における取り組みを、保護者に積極的に周知していく必要がある。 ・新学習指導要領における授業改革・改善についてが、保護者に正確に伝わっていないと思う。 ・子どもたちは、授業や行事等を見ても落ち着いて学校生活を送っている。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた校内研究(授業研究)やTT授業及び放課後や夏期休業期間を活用した学習会の実施などの一人ひとりを大切にしたり取り組みやその成果を多くの機会を通して保護者に向けて情報発信をし理解してもらう。 ・引き続き、一人ひとりを大切に授業実践を行うとともに基礎基本の定着を目指し、授業研究や授業改善を進める。また、令和3年度全面実施の新学習指導要領を見据えた授業実践を行う。 ・家庭学習の大切さを浸透させるために、教員・保護者・生徒が共通理解をし、自主ノート(自主学習ノート)等への取り組みの習慣化を進め、基礎基本の定着へとつなげていく。 ・家庭学習の大切さや意識の向上については、小学校とも連携して進める。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	基本的な生活習慣の定着を図り、落ち着いて充実した学校生活を作る
目標（評価規準）	学校内に自分の居場所があり、仲間と協力して落ち着いた日常生活を送ることができる	
重点に係る現状 設定理由	学区内3小学校出身の生徒が互いを認め合いながら安心して安全に生活できる学校をめざしたい。特にいじめ防止に努めると共に暴力・いじめは許さないと毅然と丁寧な指導を心がける。また、規律ある生活習慣や場に応じた言動が不適切な面も見られるため、教師と生徒の信頼関係を高めながら社会性を育てつつ、一人ひとりに居場所があり行事や部活動等に充実した学級・学校生活を送らせたい。	

評価資料	評 価
	各アンケート項目に対して、AまたはBと回答した率を【肯定的】、CまたはDと回答した率を【否定的】と表記する。
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>①基本的な生活習慣の定着と向上への指導 <教員>【肯定的】93%→生徒の【肯定的】90%と概ね一致している。</p> <p>②公私を踏まえ、TPOに合わせた言葉・態度・行動への指導 <教員>【肯定的】100%→生徒の【肯定的】89%と概ね一致している。</p> <p>③生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築く。 <教員>【肯定的】100%→生徒の【肯定的】71%と差異があった。</p> <p>④自己肯定感や達成感を育て更に高い価値観（理想）を追い求める生徒を育てる。 <教員>【肯定的】90%→生徒の【肯定的】95%と概ね一致している。</p>
各アンケート等の結果	<p>①規律ある生活習慣を身につけるよう心がけている（身につけさせるよう指導に努めている）。 <生徒>【肯定的】90%・【否定的】10% <保護者>【肯定的】89%・【否定的】11% [除判断できない8%] *生徒・保護者の肯定的評価がここ数年横ばい傾向にある。集団での生活には必要なことなので、指導を継続し、生徒・保護者への浸透を図っていきたい。</p> <p>②場に応じた言葉づかいや態度・行動を心がけている（言葉づかい・態度・行動の指導に努めている）。 <生徒>【肯定的】89%・【否定的】11% <保護者>【肯定的】83%・【否定的】17% [除判断できない12%] *生徒・保護者の評価はほぼ差異がなく概ね一致している。</p> <p>③気軽に話したり相談できる先生がいる（生徒を理解し信頼関係を築こうと努力している）。 <生徒>【肯定的】71%・【否定的】29% <保護者>【肯定的】85%・【否定的】15% [除判断できない14%] *教員の高い評価に比べ、生徒・保護者の評価は他の項目に比べ高くない。今後も信頼関係の構築に努めていく必要がある。</p> <p>④学校生活で目標をもって取り組んだり頑張ったものがある（達成感を味わえる指導をしている）。 <生徒>【肯定的】95%・【否定的】5% <保護者>【肯定的】95%・【否定的】5% [除判断できない4%] *教員・生徒・保護者とも肯定的な評価の割合が高い。今後も継続して指導を進める。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>・①～④の各項目とも、教員の意識が高く、日常的に丁寧な指導を心がけている成果として、生徒の評価も高く推移している。</p> <p>・項目③の「気軽に話したり相談できる先生がいる（信頼関係を築こうと努力している）」の項目については、昨年に引き続き、生徒・保護者とも【肯定的】が他の項目に比べ、高くなかった。</p> <p>・項目④の「目標を持ち、達成感を味わう（味わえる指導をしている）」の項目については、生徒・保護者とも【肯定的】が非常に高く、特に、2大行事である体育祭・文化祭を通して、大きな充実感・達成感を感じていると推測できる。</p> <p><対策・改善> ・今後も引き続き、学習指導・生活指導・特別活動との連携をさらに進め、安心・安全・安定した教育活動を推進していく。 ・生活指導面では、全ての教員の共通理解のもとで統一した指導を展開し、保護者の協力・理解のもとで生徒の健全育成につなげていく。 ・生徒との時間の有効活用のため、業務を効率化し、教員の多忙化解消に向けた業務改善もあわせて進めていく。</p>
学校関係者評価結果	<p>・今後も様々な機会を捉え、生徒理解を深め生徒との信頼関係の構築に努めてほしい。</p> <p>・生徒が日常的に落ち着いた学校生活が送れるように、今後も引き続き保護者と連携を図りながら、教職員がチームとして取り組んでほしい。</p> <p>・教員の働き方改革の面から、難しい課題であるが、多忙化解消に向けた見直しも進めていただきたい。</p>
最終改善方策	<p>・今後も引き続き、生徒指導だけでなく、学習指導・特別活動・生徒会活動等との連携をさらに進め、安心・安全・安定した教育活動を進める。</p> <p>・生徒指導面では、保護者の方にも学校と共通理解の上で、丁寧な指導を行っていく。また、教員個々の特性や個性を活かしながら生徒との信頼関係の構築を図り、生徒一人ひとりが充実した学校生活が送れるようにしたい。</p> <p>・不登校生徒については、今後も保護者と連携し状況を把握するとともに、生徒・保護者の困り感を理解し、教育相談コーディネイターを中心として丁寧な支援体制の中で対応を行う。</p> <p>・教員の働き方を見直し、効率的な業務の推進を図る。</p>

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	保護者・地域に信頼され開かれた学校づくりを進める
目標（評価規準）	本校の教育活動が保護者・地域に理解され、有効な意見反映や確実な協力が得られる	
重点に係る現状 設定理由	学校の教育活動を積極的に公開し、情報発信に努めるとともに授業参観・教育懇談会・各種行事等への参加機会を多く設定し学校と保護者・地域との相互理解を深め、連携・協力をしながら学校づくりを進める。また、教員・生徒が地域の中でボランティア活動に参加しながら地域の中で自分の存在感を認識できる機会も設定していく。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>各アンケート項目に対して、AまたはBと回答した率を【肯定的】、CまたはDと回答した率を【否定的】と表記する。</p> <p>①積極的に保護者との交流を進め、保護者の学校理解・生徒の共通理解を図るように努める。 <教員>【肯定的】93%→生徒の【肯定的】86%と概ね一致している。</p> <p>②情報発信に努め保護者の学校理解を図るように努める。 <教員> 肯定的:97%→生徒の肯定的が84%と多少の差異がある。</p> <p>③福祉・ボランティア活動等、集団及び社会の一員としての自覚を高めるように努める。 <教員>【肯定的】:80%→生徒の肯定的52%と特に生徒が低い水準である。</p> <p>④三崎中の生徒は安心して学校生活を過ごしている。 <教員>【肯定的】:97%→生徒の肯定的91%と概ね一致している。</p>
各アンケート等の結果	<p>①地域の方や来校者に積極的に挨拶している（積極的に学校公開に取り組んでいる）。 <生徒>【肯定的】86%・【否定的】14% <保護者>【肯定的】98%・【否定的】2% [除判断できない2%] ＊ここ数年、保護者からの【肯定的】が高く、一定の理解がいただいている。</p> <p>②学校・学年・学級の様子ที่わかりやすく、ためになる（情報発信に努めていて学校の様子がわかりやすい）。 <生徒>【肯定的】84%・【否定的】16% <保護者>【肯定的】93%・【否定的】7% [除判断できない3%] ＊マチコメール・学校だより等による情報発信を多くしたことで、学校の様子のわかりやすさにつながったと判断できる。</p> <p>③社会の一員としての自覚、社会や地域に役立っていると感じている（地域行事によく取り組んでいる）。 <生徒>【肯定的】52%・【否定的】48% <保護者>【肯定的】91%・【否定的】9% [除判断できない10%] ＊質問内容に多少の違いがあり、教員・生徒ともに評価は高くない。特に生徒はもつとできることがあると思っっているようで評価が低くなっている。保護者には地域の学校として一定の評価・理解はいただいていると感じている。</p> <p>④本校の生徒は安心して学校生活を送れている。 <生徒>【肯定的】91%・【否定的】9% <保護者>【肯定的】90%・【否定的】10% [除判断できない4%] ＊安心・安全な学校生活は本校の教育活動における大前提であり、取り組みが浸透・理解されていると感じている。今後も継続して取り組んでいく。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のめざす「開かれた学校」という面では、ここ数年、保護者の評価が高く、確実に「地域の学校」として定着してきたと判断できる。 ・昨年度より、生徒のボランティア登録制度をつくり、今年度も地域行事に積極的に参加することができた。 ・懇談会・茶話会やスポーツ交流会などを企画し、保護者来校の機会を多く設定した。多くの保護者の参加があり、教員との交流を深める中で保護者の学校理解につながったと感じている。 <p><対策・改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた地域の学校」を更に進めていくために、生徒だけでなく、教員も積極的に地域行事に参加し、地域交流を図っていく。 ・学校だより・マチコメール等を等して、積極的な情報公開に努める。 ・学校・家庭・地域の三者で、生徒の健全な成長を見守れるよう、さらに工夫し活動を進めていく。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等により、地域へよく貢献していると思う。 ・生徒に対して、ボランティア活動での貢献度を、その都度しっかり評価して、伝えていくとよいのではないかと。 ・今後も情報発信を積極的に行ってもらい、さらに地域との交流を深める取り組みをお願いしたい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開・授業参観・保護者会・PTA活動等、保護者・地域の方の来校機会を多くするとともに内容を工夫し、さらに開かれた学校づくりに取り組んでいく。 ・「学校サポーター（保護者有志）」による図書館整備、ベルマーク集約、定期的な読み聞かせをしていただいた。今後も活動の継続をお願いしていきたい。 ・ボランティア活動は、今後も学校として意識をさらに高め、組織的に活動できるようにするとともに、取り組みの評価をしっかりと行い生徒へ還元していく。 ・学校通信・学年通信・マチコメール等、今後も積極的に情報の発信に努め、学校・家庭・地域との相互理解を深め連携をしていく。